〈医療法人新青会　川口工業総合病院〉

川口健康保険組合「川口工業総合病院」は昭和34年に設立し、増築を繰り返し運営して参りましたが、一番古い建物は55年近く経っていました。今回の新築で病室や廊下などは広くなり、よりよい医療の提供ができる環境になりました。病床数（199床）診療科については現在と同じ機能となります。小児科は外来のみとなりますが再開しております。産科については医師の確保が難しくオープン時にはスタートできませんが、準備が整えば再開できるよう設備は整えています。

新病院になりましても病院の理念である「地域とともに歩む医療を」を目指し、より良い医療を提供してまいります。

＊お知らせ＊

☆完成予定：平成25年10月31日

☆新病院開院予定：平成25年11月25日

☆鉄筋コンクリート7階建て、敷地面積3,540m^2、述べ床面積9,722.12m^2

☆診療科目：内科、循環器科、神経内科、呼吸器科、アレルギー科、消化器センター、外科、整形外科、リウマチ科、小児科、婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、泌尿器科、リハビリテーション科、麻酔科、健康管理科、救急部

◆職員や看護士の皆さんも以前と変わりません。病院名も「川口工業総合病院」ですので市民の皆様には安心して今まで通りご利用いただけます。

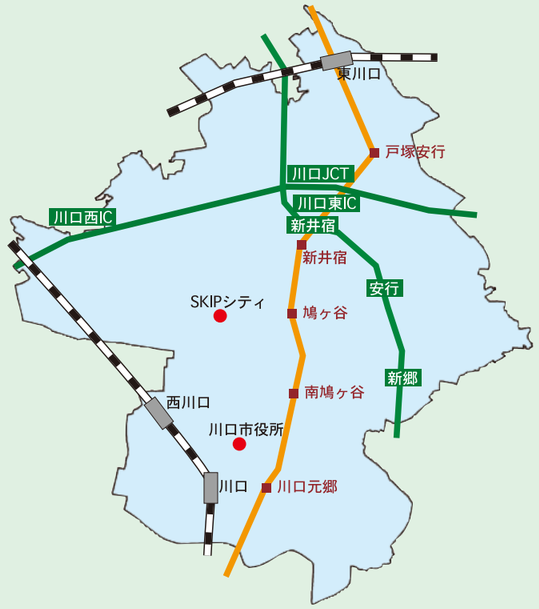
パスポートセンターの移設について

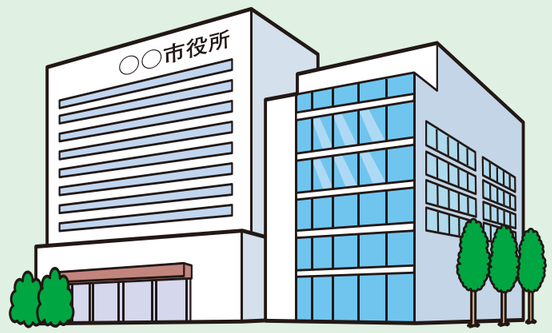
平成19年4月2日に川口駅西口リプレー番街2号棟2階で、川口市民の皆様には大変便利となり、パスポートの申請・更新にあたってはわざわざ大宮まで足を運んでいましたが地元の川口駅のすぐそばで事が足りていました。最近では高校の修学旅行目的地は海外であり、大学生や社会人も気軽に海外旅行やビジネスなどと、目的は違ってもパスポートセンターの利用機会は増え続け、家庭内でも日常的な事となってきています。「住みやすい街・川口」の実現に向けた活動の「ひとつ」としてご紹介させていただきましたが、平成25年10月15日に西川口駅西口の地へ移転することとなりました。

今後は、市外の県民も利用できるパスポートセンターに生まれ変わることになります。

川口市役所本庁舎建て替えについて

8月29日に「川口市庁舎建設審議会」より岡村市長に「本庁舎及び市民会館跡地」よりも「SKIPシティC街区敷地」の方が優れていると答申がありました。わたくし松本英彦は、以前から庁舎の建て替えについて地元の皆様の意見を聞き、取りまとめ、活動をしてまいりました。再三ふれてまいりましたが、老朽化の進んだ川口市本庁舎につきましては、来庁者の安全・安心の確保や市民サービスの向上、さらには災害時の防災拠点としての機能の充実を図るため、早急に建て替えに着手すべき喫緊の課題と考えているところであります。



JR川口駅に近く、バスの便にも恵まれた現在地に市役所が建てられたのは昭和10年。爾来、昭和34年の火災に伴う建て替えを経て、その後の増改築を重ねながら、これまで78年余にわたり多くの市民に慣れ親しまれてきました。また、来庁者や職員など人の流れが非常に多いことから、市役所及びJR川口駅周辺地域の活性化にもつながり、それにより生計を立てている方々もおります。こうしたことから、市役所を全く別の場所に移転するようなことになれば、市民の間に混乱を生じるだけでなく、これまで市役所とともに発展してきた地元経済の空洞化を招く結果にもなりかねません。

さらには、市役所周辺には法務局をはじめ、簡易裁判所、税務署、ハローワーク、警察署、県税事務所など国・県の機関も多数存在しております。正にこの一帯は本市の行政の中心地であり、川口の「霞ヶ関」といっても決して過言ではありません。今後も川口市の発展を支えるべく、是非とも現在の市役所本庁舎及び市民会館跡地での市庁舎の建て替えが実現できればと考えています。今後は市議会の意見など総合的に判断がなされ最終的な結論がくだされます。